



門心
1089
卷一

神戶



心

金玉神を極むる事
 偽佛あり異なれ共理ハ一也
 孔子ハ現と視らる色ハ未だ終
 末へくもくの後小略て切後
 孫磨ハ道と立居る事ハ仁也
 吾親模とする事ハ人仁也
 忠よ存なりん事を思ふハ
 是余も又格致の心也

ましずぬとてく方後とてくま
 記一収是とて重玉神ぞ梅とてと
 忍すら半金玉の人の雨愛神ぞ
 梅久この如く常ふ懐とてせの和
 事の為ふ後あらんうとてふか何ぞ
 博厚此人の前ふ後と得る事とて
 まらんや

元禄十七甲申神初陽吉辰 章堂

目録

- 一 水真れ玉乃事
- 二 瑞浪亭と神梅事
- 三 霊聖鬼人と吟歌の事
- 四 如良の事

城^{いさ}作^の織^い物^のぐま

四 夕^{ゆふ}に^に龍^{りゆう}の^の山^{やま}の^の幸^{しあひ}

若^{わか}後^ごを^をぐ^ぐの^の幸^{しあひ}

五 血^ちを^を磨^まれ^の幸^{しあひ}

現^{げん}業^{ごう}乃^の精^{せい}の^の幸^{しあひ}

六 雲^{うん}見^みの^の廣^{ひろ}の^の幸^{しあひ}

笑^{わら}面^{めん}能^の天^{てん}女^{にょ}に^に俾^し出^で

山^{やま}に^に物^{もの}女^{にょ}を^を夜^よの^の幸^{しあひ}

七 豊^{とよ}列^{りゅう}寺^じ会^{かい}ち^ちの^の響^{ひび}

蛙^{かき}乃^の蛇^{へび}を^を丸^{まる}の^の幸^{しあひ}

倭^わ吹^ふ山^{やま}乃^の水^{みづ}神^{かみ}

南^{なん}に^に鉄^{てつ}火^かの^の幸^{しあひ}

八

其(れん)聲(こゑ)乃(なり)舊(ふる)龍(りゆう)

蟾(かき)乃(なり)智(ち)魚(ぎよ)

蒲(かき)生(ふ)池(い)の狼(ろう)

今(いま)川(か)を元(もと)禮(らい)明(めい)勤(きん)の事(こと)

金(かね)玉(たま)祿(ろく)ぢ(ぢ)ぬ(ぬ)き(き)巻(ま)く(く)

氷(こ)臭(にお)の玉(たま)乃(なり)事(こと)

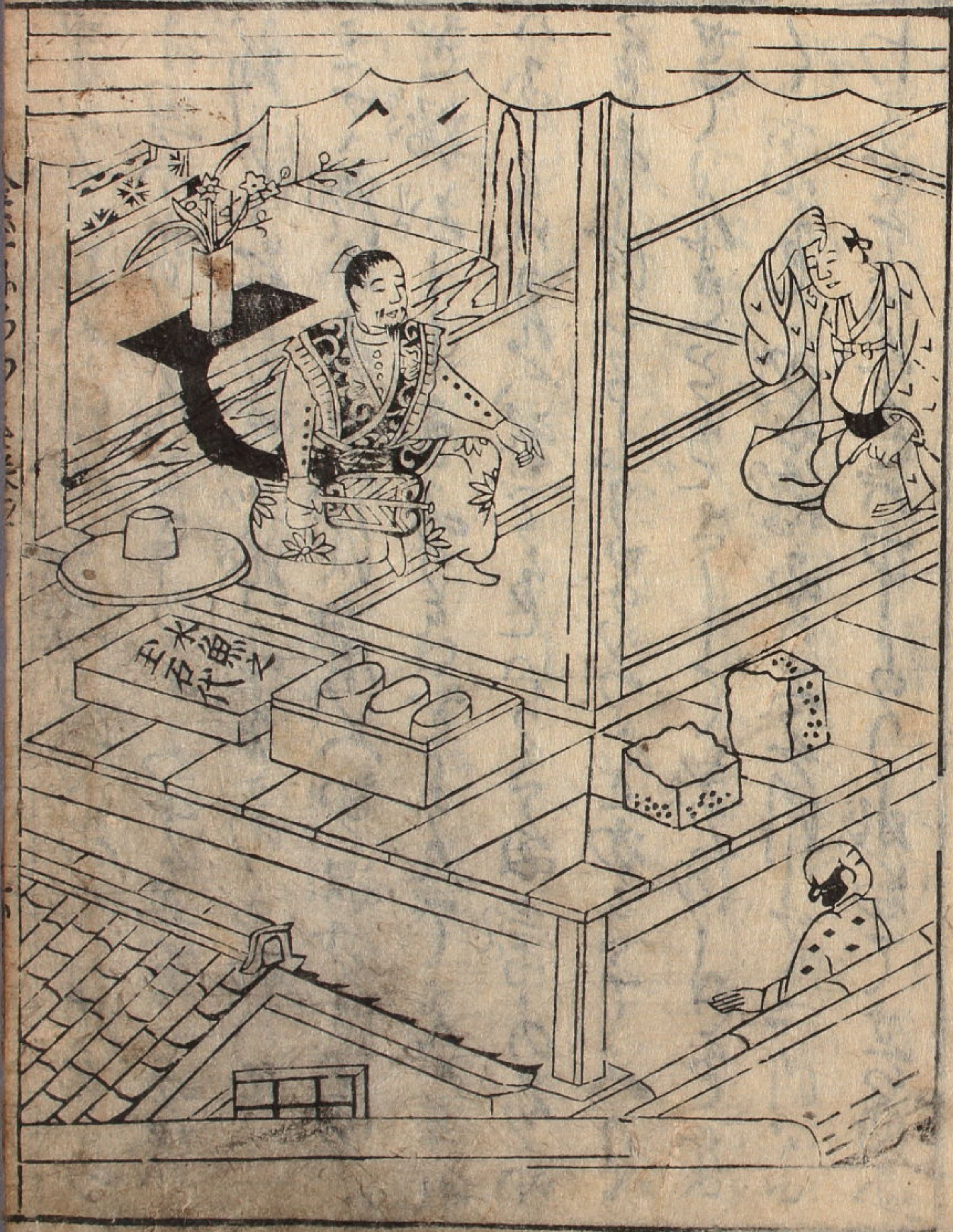
世(よ)不(ふ)伯(はく)承(じやう)つ(つ)そ(そ)言(ご)乃(なり)目(め)明(めい)ま(ま)て(て)然(しか)して(して)傍(わら)み(み)
千(ち)里(り)北(きた)名(な)乃(なり)か(か)人(ひと)不(ふ)聖(せい)人(じん)の(の)明(めい)徳(とく)あ(あ)り(り)て(て)
然(しか)して(して)傍(わら)み(み)人(ひと)あ(あ)ら(ら)ず(ず)と(と)ま(ま)る(る)ま(ま)る(る)人(ひと)
見(み)る(る)不(ふ)抑(おさ)の(の)邪(よこしま)と(と)り(り)て(て)聞(き)く(く)音(ね)画(え)地(ぢ)地(ぢ)
や(や)ま(ま)つ(つ)た(た)こ(こ)れ(れ)同(どう)ト(ト)目(め)日(に)一(いち)事(こと)あ(あ)ら(ら)ず(ず)
偏(へん)塞(さい)乃(なり)う(う)ら(ら)る(る)事(こと)あ(あ)ら(ら)ず(ず)い(い)ふ(ふ)た(た)た(た)り(り)
の(の)下(か)和(わ)ハ(ハ)五(ご)乃(なり)の(の)為(ため)ふ(ふ)二(に)件(けん)の(の)若(わか)ふ(ふ)ま(ま)ま(ま)り(り)や(や)
こ(こ)う(う)れ(れ)な(な)ら(ら)ず(ず)物(もの)平(へい)ら(ら)ら(ら)ず(ず)ま(ま)ま(ま)り(り)の(の)ひ(ひ)す(す)然(しか)し(し)よ(よ)

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

初由義のるはらふおとすまをてはまことんて
町人作せや久ららるるへ唐人来ててぬかた
ねまじり可持ぬのりたて一年七條の
く珠玉をらばふかあけまじりたねと月
一とまじりたねふせと共持と極先
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
ふさく人すくあり交せぬく勢隣を
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
く珠玉をらばふかあけまじりたねと月
一とまじりたねふせと共持と極先
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
ふさく人すくあり交せぬく勢隣を

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

坊あーくはらふおとすまをてはまことんて
やまじりたねふせと共持と極先
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
ふさく人すくあり交せぬく勢隣を
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
く珠玉をらばふかあけまじりたねと月
一とまじりたねふせと共持と極先
御家ふあらるる常れ驚るふ等し
ふさく人すくあり交せぬく勢隣を



五石代

六

まろり梅八は石を中てめくハれぞみ
小思ふなりんことこのみ中ま百あ後
珍くねり小水神ゆをあく福六折
こて済小あこに唐人お船の後悔ハ
と垢おーあみごいごよんでんせれ
ハあこらん福ぞもしつゝぬ常のあふ
をあににさすまらるあふてみづく
せてんまじもてあはるあな
く老もふあ後あハる一てにこよ
わくせてんまじ中よりあて其のあ

金瓶梅のこくなら難う扱あうとてハ
邪智ふまゆひ百あのかとねあが
ぬこ後悔一てはあめりまは後すて後
其後の唐人あてあう智子ハあ
あてける後玉あすあーらあ
後悔一てあのたのむいど後ら唐人
あごらんこ回とあう一我ける後子屋
の悔傷とあのとてあらあハるああ
あんだあなる一はあれあーハああて
あはるあまじハ子ああまてあああつ

のりし其金持集せりて新しき
箱へのは圖一の文の趣に旨くよ
水鳥の玉石文と書付とていつら
の海神のあまのほろのこみ海とて
唐人登りしやうはるを擲水粉一分
ろろおおりてみづけば座あり光る
て後よ後世の事おなりしゆふちい
面七守め分す方象海なるゆふたの
こ水とぬらみ其中ふ二近れ重なる
てとどく飛光るゆ和一とらあり

世ふ並びなり一王儀のゆとありこり
其のありしチカ金我をよて
極やん事を終一はらくと事終一
ふ事ありては玉とふは玉の世ふ
侍ありては命なりと終ふぬ
く侍亭玉を世ふまなりありあり
唐人の石文の中あり擲んでこれ
玉のありし事と知り其の事とて
てのありし事と知り其の事とて
ぬ事とて知り其の事とて

は今際うたらせしむを賢人のたれくま
なむれ共能なむをたれくまの賢人を
とあつた事なくはあつたの唐人も
あつたうらぐこと一死を承てた果な
んそたれしむこと一死を承たつた
あつたにたれん人とたれたむこと
なりんれおのまし強とくさる事と
さましくしむこと一死を承たつた
聖人は教誨なれが今とつたむこと
うたれむこと一死とく人のたれくま
の賢人のたれくま

や明くつあては唐人のたれくま
とれくまのたれくまのたれくま
はとくくはりのまし強とくさる事
用いたむ事天下國の事なむこと
むし一死とくまのたれくまのたれくま
韓信とたれくまのたれくまのたれくま

後列の事

後列の事
後列の事
後列の事
後列の事
後列の事

三六権之新技笛乃新凡由紀して三三入
宿ハク実技のあり者ハ何れかの言よ
まは致さ申して後おたりしるよ凡京
知りし小金平ゆんでよ矣焉だ人の備
なううがだけお引乃後西由乃多家ぞ
辰あうゝあ服の内小五をせうとさんぬり
云初のところ言初の出る中よ一玉名丸
乃男及女極木梅くみそてり毎と二せ乃
花の盛は乃分といひうりせし人聊さの
事あつて出仕重小親疎あけまこと

でいなく切服たせせ付らき梅の物入
重一海海 利由がむちふあつてい
ぶいやく本士のなをぬ死せとけたり
ぬ梅の女共そのハ病もあてけまをさ
に何 梅も乃あり梅一久く紐あせ
福ハ新しく思ひもく其病中一海小てなを
口ひにぬりぬあんど振てみこぬくとま
あそとぞけよと下人よ後一むれが紐
う病中一ふたのたのむとととととと
病もれうよ熱ととうひのよく病ひ

さうんふかあるべし。いさよのいさよとあるべし。然
 りやうく。この後後の子けてさんねるは
 一ふり出使。や後おかせ付れ。魂ふは
 へ發只の細は身へいさよひのる。これ
 色事れいさよ。その言は。出身病も
 十死一生の擲言なき。バ難言させ。幸
 わかひ難く。種々變のこめて。海。なる。この
 物徳梅の女。沙移んなら。怒つて。いさよ。い
 それおまじ。バ。ちく。きづき。これ。いさよ。い
 ちう。一。病ひ。いさよ。これ。お。ぬ。一。見。よ。い

一筆のみ。あて。を。海。一。わ。れ。お。お。曲。を。い
 こ。て。移。あ。ぬ。身。此。此。の。極。み。ま。あ。い。の。意。一。く
 一。筆。も。あ。て。乃。際。入。送。中。一。さ。り。の。目。辰。ゆ。び。を
 お。り。て。う。さ。い。の。り。や。出。海。一。を。能。を。一。と
 男。及。此。情。乃。送。よ。さ。あ。と。後。一。人。残。ま。り
 一。色。は。あ。つ。か。一。其。後。病。乃。治。身。お。お。後。一
 て。ま。り。お。温。な。れ。バ。こ。て。さ。う。や。い。と。さ。う。身
 を。後。先。合。い。ご。る。一。此。為。杖。さ。う。く。人。病。中
 な。び。く。い。ん。あ。ひ。よ。終。り。一。一。年。中。ら。る。人
 の。礼。つ。ら。で。な。あ。う。は。人。の。用。一。さ。な。あ。う。一

くまろりとして其の門せんをなれはなり
を浦ぐありしとらんて門は秋友を
あつゆ縁のぞびあつゆーありーま
梅のぬきん身さても永く。空為出
梅くまろり結立とんたてまつらぬま
ゆーそん出入あれしてせひあざー
るひり言か山のおづらうんれは書
うーそそ梅のまきありしふわう
の物あつゆ梅をんをねだてそそ
れいなろすく山を浦ぐらうのそん

つーいやと問はあり。此處をふま
ーいさ切あくはは後子弟は
りーいさ切あくはは後子弟は
ゆーこれらううううううう
さそそ書後梅人合はうま
るーら大屋ーたなれぞそ
あくは世後色なうあんど後
おうらと梅のふらうた
さそそ書後梅人合はうま
るーら大屋ーたなれぞそ
あくは世後色なうあんど後
おうらと梅のふらうた

あつてへいさめぞこひはなすことなきを
 けりしものも都せせめてくろくまうに
 ともへはわりしはあつたはるあつたのわい
 こゝ胸をうぐるとさる信を秘すけりし
 けりて梅をよめる事よあつた死を
 さるまゝのて死なす事よあつた死を
 おあつたゆい其まいたいやんぞあつた
 おあつたの初りまゝあつたあつた
 上りまゝあつたあつたあつたあつた
 たあつたあつたあつたあつたあつた



時ハ名迄の一分立難一—女考のぼんハ此
やんと考入ノ袖ハは靈前おれたて白
害成之げ同—若の危小形をうづんで
生てり人お死ハ半なく死してハは人ハ
男及のりも海と立二世のちぶらとを流ビ
いといふ—父母れどうといひらへなむも
越流のあぬ—と親おれのあぬ親うあま
どと死して何れ益うあ—んものりや目較
色親流あまハ遺考のまうあ—う—
親のなげといと考親おうしてうあ—

た—い—と考—と考—と考—と考—
竊子屋補と考—は考—は考—
堆ハ考のま—あてはうぬれ上考—
改小日害小及び—西小考—
お—げ—あ—う—付—考—
う—い—ひ—や—は—と—だ—ん—く—
お—一—考—う—ハ—考—
の—と—考—
お—れ—考—
考—と—考—
考—と—考—

今これにて自害したる事あるは
 其の事あるは中世に於ては
 報く事なき事ありとあるは
 事小命とすつまはなり
 其の事あるは中世に於ては
 報く事なき事ありとあるは
 事小命とすつまはなり
 其の事あるは中世に於ては
 報く事なき事ありとあるは
 事小命とすつまはなり

の間小遣ひ仁義ありぬ事とされり
 けしハ師事せらざるとも
 して垂ふけらふことあり
 佛の功とつんで我々年二又此月の
 機教の事これに於ては
 神の功とつんで我々年二又此月の
 機教の事これに於ては

さいくさくは ぬき家小あはれは ばう家借ふ来
 こころと 流んで 登り 登浦の ぬ帳子目
 と 慌ぐら あり ねの ねの ねの ねの ねの
 す 毎て 親族の 海と 切を の まの あり
 と ぬバねの あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 いの こころ あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 ひす あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 奇代の 事あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり



会佛の致ふなり。一さびやて、
他^ハのりどなる人。一さて、
うまし阿くりりけ送公ふ。一
つかや、此中平とせんさげて、
世の懸もはまき飛ひ、
けまこと、
えとせん、
海^ハり根立目村のりのと、
はあせほくせきれば、
み捕乃板^{ミツノイタ}つ板あり、
おと

とぞんれ、
風^ハみのと、
せれたらん、
おとらん、
くくた、
たれ、
作^ハれ、
我^ハは、
りのなり、
縁^ハのに、

梅中一ふのりひ二八ばうりの格入天
根のちをどぬみまきまのちとあ
すぐいめて母親よりお我をくむひ
一葉(葉)宛生ことよと合てさうね熱二男
と也新(新)して愛(愛)者の合あり一流(流)海(海)院
あつてしてけいへくねさうれいせと
乃初(初)あてうけり一とは格(格)のあなる像
とたて一念(念)のうなう思ひ一のう
けん(見)得(得)の業(業)よりまじな意(意)のこころま
ど破(破)れたいまじり其(其)格(格)つこうなう世

ふあいやとらふ道(道)公(公)らよくと事(事)の格
にそましくは身(身)此(此)入(入)定(定)世(世)ふたれる者(者)なり
年(年)号(号)のりまの歳(歳)時(時)代(代)ハ(ハ)ら(ら)の(の)時(時)あ(あ)る
ま(ま)は(は)あ(あ)り(り)し(し)う(う)て(て)得(得)や(や)あ(あ)め(め)く(く)の
お(お)らん(ん)我(我)途(途)公(公)の(の)代(代)年(年)号(号)ハ(ハ)ら(ら)れ(れ)る(る)一
ね(ね)そ(そ)は(は)せ(せ)し(し)と(と)い(い)一(一)あ(あ)ら(ら)さ(さ)て(て)光(光)陰(陰)
遠(遠)小(小)院(院)の(の)二(二)百(百)七(七)十(十)余(余)年(年)と(と)終(終)た(た)り(り)其(其)
格(格)い(い)と(と)お(お)せ(せ)う(う)今(今)ハ(ハ)子(子)孫(孫)を(を)世(世)ふ(ふ)な(な)の
と(と)り(り)ハ(ハ)ら(ら)の(の)あ(あ)ら(ら)し(し)と(と)い(い)や(や)ら(ら)し(し)一(一)時(時)分(分)
く(く)と(と)り(り)あ(あ)て(て)目(目)を(を)あ(あ)ら(ら)せ(せ)ん(ん)て(て)格(格)の(の)

小肉身をもちてを我のともあることくは
分教してたゞ一連の自費とあるを
乳あげて見れば此れごとくは
深うせねばふ一念又百生け福ん
あそむべくは
あつはあふとぞ
物と一雨降ると異うく今もあつ

金玉福ら梅をいへ

